

あうみネット



BIWA CHAN

淡海の市民活動・ネットワーク情報交流誌
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

●発行日 / 2010年11月24日 ●発行所 / (財)淡海文化振興財団

No.

76

2010年 冬号

「私たちも1.17は忘れない」 (阪神淡路大震災メモリアルイベント)

阪神淡路大震災を記憶し、命の尊さを考え、いざという時へ減災を誓うイベントです。

1部 映画「マグニチュード 明日への架け橋」

2部 ドミノで防災・ドミノで減災

3部 希望の灯り ～しあわせ運べるように～

日時●1月15日(土)～16日(日) 21:00～9:00

会場●新旭武道館 参加費●1,000円

定員●120人 ※要申込み 連絡先●たかしま災害支

援ボランティアネットワーク「なまず」

e-mail : info@takashima-namzu.net



国際交流フェスタ2010

～楽しかったらエエやん！わろたらエエやん！めっちゃエエやん！～

甲賀市最大の国際交流イベント！～楽しかったらエエやん！わろたらエエやん！めっちゃエエやん！～をテーマに各国の飲食物や民芸品の販売、様々な団体の活動紹介、ステージにてサンバやチャアリーディングなど国籍にとられない様々なダンスパフォーマンスなどを予定！！フィナーレでは滋賀の伝統芸能ともいえる「江州音頭」を参加者全員で踊りたいと計画中。当日スタッフをはじめ実行委員も随時募集中です！

日時●12月12日(日) 11:30～

会場●甲賀市碧水ホール全館(ホール・ロビー・前庭など)

参加費●入場無料

(ただし、飲食物などは会場にてチケット購入のうえ利用する)

連絡先●国際交流フェスタ実行委員会 甲賀市国際交流協会事務局
(甲賀市水口町水口5676 自主活動センターきずな内)

TEL・FAX : 0748-63-8728 e-mail : mifa@mx.biwa.ne.jp



特集●淡海とびっくす ②
市民活動・NPOで働きたいあなたへ

■NPOさぽーとぽけっと ①
ブログを作ろう！

■市民団体活動紹介のわっ ⑤

- 特定非営利活動法人 ござれGO-SHU
- 特定非営利活動法人 碧いびわ湖
- 特定非営利活動法人 音楽療法の会さざなみ

■あうみネット★INFORMATION ⑦

VOICE VOICE

淡海ネットワークセンター((財)淡海文化振興財団)の運営委員と「地域プロデューサー」を目指す「おうみ未来塾」の卒業生からの声をお届けするコーナーです。

運営委員 VOICE

「私と市民活動との出会い」

松浦哲郎

(龍谷大学社会学部 講師)

私は東京で生まれ、金沢で育ちました。両親が市民活動に熱心でしたから、生まれた時が「出会い」の時、とも言えます。核家族でしたから、親は幼い双子(妹と私)を連れて、方々へ出掛けざるを得ませんでした。環境保護や平和活動を行う大人たちに、よくかわいがっていただいたようです。私と市民活動との主体的な出会いは、日本初のNPO放送局「京都三条ラジオカフェ」で働き始めた、2004年です。市民が自由に発信できる権利と場所を保障するための取り組みを、それ以来続けています。自分が今日活動できるのは、これまで多くの方々が、綿々とそして懸命に、様々な分野での取り組みを続けてこられたおかげ、と痛感する日々です。



※運営委員は、市民の意見を当財団の運営に反映するため、公募も取り入れた委員を設置しています。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

おうみこっとなと 夢をつむぐ

10期生 池田佳子(いけだよしこ)
グループ：おうみこっとな夢つむぎ

子育ても一段落し、自分自身と向き合った時に未来塾を知り入塾しました。人との出会いも豊富で実り有る2年間でした。そこでふわふわの綿と出会い一目惚れして活動に至っています。昔の人は生活の一部だった綿作りの大変な作業を知った時は感動しました。この気持ちを沢山のの人に分けたいと思います。



子どもから高齢の方や障がい者の方まで誰でも畑作業や、はた織などが楽しめます。

また福祉施設・作業所の仕事として連携し商品化、販売まで繋げて利益とする。幅広くどこまでも夢がひろがる内容です。

綿の中のたった小さな一粒の種。その綿をとおして人の輪が広がります。

※おうみ未来塾は、地域の課題解決を実践する「地域プロデューサー」が育つ塾です。

●NPOさぽーとぽけっと●

あなたのNPO活動をサポートする情報をお届けします。

NPO SUPPORT POCKET

ブログを作ろう！

今回はNPOに役立つITシリーズ第3回です。実際の情報発信のための方法として、誰でも無料で簡単に作れるブログを紹介したいと思っております。様々なブログがあるなかで、公益活動に携わる方に特化されているCANPANのブログについて日本財団CANPAN事務局の山田泰久さんにご紹介いただきます。

NPOにとって便利な情報発信ツールのブログ。インターネットにつながるパソコンと、積極的な情報発信で地域や社会をよくしていきたい！自分たちの活動を広げていきたい！という熱意があれば、誰でもブログを開設することが出来ます。しかも、無料で、専門的な知識も必要ありません。Eメールで写真を添付して送信できる程度のパソコン・スキルがあれば大丈夫です。ブログで情報発信をすることで、これまでとは違う方々があなたの団体を知るきっかけになります。

ブログを開設したら、週に2～3回、みなさんの日々の思いや活動を、できれば写真付きでブログに書いてみてください。一つ一つの記事をしっかりと書くことよりは、簡単な記事でも構わないので継続することが重要です。リアルタイムでみなさんの活動がわかるというのは強力な広報ツールとなります。ブログを通じて、みなさんの団体の理解者が増えることは確実です。

しかしながら、ブログを作っただけでは誰も見に来

てくれません。ブログは「お店」です。商品の充実と集客が大事です。商品は情報・記事です。常に新鮮な情報を提供すること、その情報を見に来てくれるお客さんを集めること。ブログを更新するのとあわせて、ブログの宣伝をしてみましょう。いろいろな機会を見つけて、ブログの宣伝をしてみてください。

ブログの情報発信力を高める秘訣は、他のブログをいろいろ見ることと、良い点は参考にすることで。日本財団が運営する公益コミュニティサイト「CANPAN」(<http://canpan.info/>)では、NPOの情報発信のためのブログサービス(※)を提供していますので、多くのNPOのブログを簡単に見ることができます。ぜひ参考にしてください。

(※) CANPAN ブログは、無料なのに宣伝広告がつかない、ワードやPDFなどの電子ファイルを掲載できるなど、NPO向けの機能が充実しています。

山中昌幸さん

●プロフィール●

1972年東京生まれ。高校時代より高校教師を志望し、教師は広い視野と様々な経験が必要と考え、学生時代から約2年間で海外13カ国を放浪する。その間に受験教育に偏った日本の教育に疑問を持ち、起業を決意する。帰国後、大手教育会社に3年間勤務。退社後、2001年、29歳で現団体を創業。夢は志を持って挑戦する若者を輩出し、全ての青少年が夢と希望を持てる社会を創ること。



市民活動・NPOで働きたいあなたへ

市民活動やNPOへの関心が高まり、やりがいや生きがいを求めてNPOでの仕事を希望する人が増えているようです。NPOではどんな人材がもたれているのか、どんな準備が必要なのか、NPOで働くためにはどうすればいいのか。一般企業と違って情報が少ないNPOでの仕事について、NPO運営者と働く方々にお聞きしてきました。

JAE(NPO法人日本教育開発協会)

目標●100年後も青少年達が希望と誇りを持てる日本を創るために、共に挑戦し共に成長する場を創ることで、志を持ち夢にチャレンジする若者を輩出する。

事業●企業の若手社員が仕事のやりがいや魅力を子ども達に伝え、子ども達と共に学ぶ機会を提供する「ドリカムスクール」。正社員と同じようにプロジェクトに関する学生の長期実践型インターンシップ「アントレターン」では、学生の実践力を培い、会社の活性化にも繋がる機会を提供。

URL: <http://www.jae.or.jp/>

年間収入 約4000万円 常勤職員 14名 協働学校81校、協働起業270社(2009年度までの実績)

NPOでは起業家の精神を持って仕事を

JAE(NPO法人)

日本教育開発協会 理事長

山中昌幸さん

起業されるまでの経緯を教えてください。

もともと高校教員を目指していましたが、社会体験を積みたと思います、大学を一年間休学して経済的に大きく伸びる中国へ留学をしました。そこで出会った若者たちは、誰もが将来への夢を持ち、そのために努力を惜しまないのです。その頃の中国ではまだ停電などもよくありましたが、ロウソクの明かりでも勉強するのです。振り返って日本では夢を語る若者はとても少ない。日本の教育に将来像や夢を育む機会が無いのだと思いました。

そこからどうして起業することになりましたか？

留学を終え、教師として学校で子どもたちの夢を育みたいとも考えましたが、今の学校の仕組みの中では難しいのではないかと。それなら自分で学校を作ろうと考えました。卒業後は

営業力をつけるために教育企業へ就職しました。何をやるにしても営業力は必要だと考えたからです。

その後、NPO法人JAEを創設し、夢を持つて挑戦できる自立した若者を育てること、若者がチャレンジ出来る社会づくりを目標に掲げて活動してきました。

JAEの職員採用では、どのような点を重視していますか？

今年は四人の採用に対して、三百人以上の応募がありました。書類選考で三年未満で職を変える傾向の方は除きました。その後、面接を行って決定しました。ちょっと残念なのが、今の仕事から逃げている印象の方が多かったことですね。また、社会起業家になることがブームになってきているせいか、「社会起業家を目指したい」と言いながら、社会のどんな課題を解決したいのかは見出せていない。社会の課題を解決するた

め的手段として社会起業を目指すのではなく、社会起業家が目的になってしまっているのを感じます。

新採用者への研修はどのようにしていますか？

新採用者への研修は特にありませんが、先輩に同行して現場へ出てもらいます。そして仕事の中から

仕事の仕方を覚えてもらいます。研修期間を設ける余裕はありませんし、新採用者には「自分で学んでね。仕事は自分でやっつてね」と伝えます。ある意味厳しいでしょうね。ここではサラリーマンではなく、ビジネスマンの意識を持ってもらいたいです。一人ひとりが起業家の精神を持つて仕事をしてほしいのです。それには依存関係ではなく、お互いに自立した関係が必要だと思っています。契約期間を設け、自立、独立を意識して仕事をしてもらっています。

多くのNPOが人材育成の余裕は無いと思います。しかし、若い方がNPOでの仕事を求め、採用の機会がきたら、自分の団体だけで考えず、周りのNPOと連携して一緒に研修することを考えてみてください。JAEも最初の頃は、同じように新採用者の研修に悩む三団体と連携し、お互いの得意なところを活かし、それぞれを各部署と考えて研修をしてきました。コストや労力も省けるのでお勧めです。

十年目を迎え、JAEから独立したスタッフたちがさらにJAEの活動を幅広く支える仕組みを創りたいと考えています。若者がチャレンジできる社会。失敗もできる社会を作りたい。社会と若者の価値観を変えていきたいと思っています。

NPO 法人子どもネットワークセンター天気村

『地球が遊び場だ!』をテーマに身近な自然や人たちとのふれあいを
通し、子どもの「子育て」と親子の「親育ち」をサポート。

DATA

草津市東草津 1-1-15 TEL : 077-564-7868
URL : <http://www.biwako.ne.jp/~nt-tenki/>
年間収入 : 4,400万円(2009年度) 常勤職員 : 14名

自己研鑽を続けて欲しい

辻 充子さん 事務局長

採用にあたっては、仕事をとおして、夢や生き方をサポートしたいのと同じに仕事で育ててほしいと思いました。夢だけでは生きていけません。夢をカタチにするために、夢を語り続けること、実践することが大切だと思います。そのため
の自己研鑽を続けて欲しいと思います。給料は自分のスキルを磨くために使って欲しいですね。私達もこのNPOを運営し、
発展させるために、学べる場所があればどこへでも勉強に行きました。今の仕事がどんな未来につながるのか、イメージすること、想像力を持つことでやりがいにもつながります。想像力は体験と五感を働かせる美術教育で養われると思います。

NPOを立ち上げたい、何かをやりたいというご相談を受けます。やりたいことは、まずやってみることで。実践にはサポートしていきたいですね。やりたいことを明確にイメージすることがまず大切だと思います。



自分が求める生き方を探して

澤田典子さん

2010年
4月
採用



大学の授業で、調べたいことをとことん調

べ、さらに参加・実践する機会がありました。子どもの野外活動に関心を持っており、授業の後もボランティア活動を続けました。就職活動では、一般企業も考えたのですが、「身近な自然を感じ、自然に気づき、自然とつながる暮らし方をしていきたい」と思い、天気村の求人に出会いました。天気村は野外での活動や地域の人々との交流をとおして、子ども達へのびのびと感性を伸ばしています。ここなら私の目指す生き方にも繋がっていると感じています。

楽しいだけだったボランティア活動から仕事になり、責任と難しさを感じています。子ども達の野外保育では、責任の重さに「楽しむ」ことができなくなりました。しかし、目指す生き方はこの先にあり、日々勉強だと思い、子ども達全体を見ること、事業全体を見ながら仕事をできるようにしたいと努力しています。仕事をとおして、やりたいことを形にする力を身につけたいと思っています。

市民活動、NPO・NGOでの仕事、インターンなどについての情報サイト

●NPO・NGOキャリア情報ポータルサイト

URL : <http://www.workingforsocialchange.info/>
運営団体 : 特定非営利活動法人ユースビジョン

●特定非営利活動法人 関西国際交流団体協議会の「よくある質問」、「求人」ページ

URL : <http://interpeople.or.jp/index.php>

●NGOアリーナの「NGO ボランティア情報」ページ

URL : <http://www.ngo-arena.org/volunteer/volunteer.html>
運営団体 : 特定非営利活動法人 環境アリーナ研究機構

●ソーシャルエコー

URL : <http://www.socialecoo.jp/>
運営団体 : 特定非営利活動法人ソーシャル・イノベーションジャパン

●NPOの総合情報サイト NPORT

URL : <http://www.nport.org/>



結びめ

滋賀県高島市で、移住・交流の促進、田舎暮らしの提案を行っている。都市からの移住希望者(風の人)と、地域住民(土の人)の“結びめ”として人と人、人と地域をつなげる取り組みをしている。

DATA

高島市勝野1108-3 TEL:090-5014-1600
ブログURL: <http://musubime.shiga-saku.net/>
年間収入:1,500万円(2010年度予算) 常勤職員:2名

『共感』が採用での最重要点

宮村 太さん 宮村太設計工房代表

結びめメンバー

一般社団法人 安曇川流域・森と家づくりの会メンバー

採用にあたっては、私達の活動に「共感」してもらえるかどうかが最も重要な点でした。「仕事」と割り切っているには、条件はかなり厳しいと思います。しかし、自分の将来展望にここでの経験がつかっているイメージを持っていると、共感して、楽しんで仕事できると思います。結びめは、高島市での田舎暮らしを提案しているので、この土地での暮らしを実践したいという強い気持ちを大切にしています。また活動を展開、継続していくためにも、マーケティングとそのため的情報発信を学び、新たな事業展開を牽引できるような存在になってくれることを期待しています。

やりたいことが見つからないと聞きますが、私自身の経験から、「本当にやりたいこと」はすぐには見つからない。本当にやりたい仕事にたどり着くまでには時間と体験がかかります。

人とのつながりから新たな展開があり、「本当にやりたいこと」につながってきた気がします。どこで仕事をするにしても人とのつながりを大切にしてほしいですね。



自分のやりたいことを求め続ける

西川 唱子さん



2009年
7月
採用

印刷関係の仕事をしてきた時に1軒のフェアトレードショップ*に出会い、

そこで地球環境の保全や有機農家さんを応援する方たちと関わる中で、その時の自分の生活とのギャップを感じました。「地球にいい生き方をするためにはどうすればいいの？」を求めて、フェアトレードや環境分野のNGOに関わりながら人脈を作りたいと活動していました。高島市は有機農業をする知人の手伝いで来るようになり、地元の方から結びめの求人をご紹介いただきました。これまでの経験を活かして、自然や農に関わる生活が提案できることに魅力を感じました。

仕事上で大切だと考えている事は、それぞれ建築士や工務店など、プロである主要メンバーの思いをくみ取り、事業をカタチにして共に進めるために、自分がどう働くかということです。

「NPOで働きたい」ではなく、「自分がしたいこと」を求めて行動し、人脈を広げることで、自分の役割に出会えるのではないかと思います。それはNPOかもしれませんし、そうでないかもしれない。ここは到達点ではなく、いつも未来をつくるために行動しています。

*フェアトレードとは、公正な貿易として特に開発途上国との取引において、生産者の生活や環境に配慮した生産物を扱う貿易のこと。

まとめ

今回の取材をとおして見えてきたNPOで働く上で大切な力は、未解決の社会的課題に向かって道を切り開く意志、自分の生き方につなげる想像力、自から学び続ける主体性のようです。また、ピーター・ドラッカーは、「非営利組織は人間変革機関である。その「製品」は、治癒した患者、学ぶ子ども、自尊心をもった聖人となる若い男女、すなわち、変革された人間の人生そのものである」と著書「非営利組織の経営」の中で語っています。すばらしい「製品」を創るためには、非営利組織(NPO)で働く者は優れた見識と真摯さが必要になってきます。

県内の市民活動に関心を持つ若者、市民活動に主体的に取り組む

若者により、交流の場「よたネット」が不定期に開催されています。NPOで働くことを目指す方にとっては、NPOの現場について情報交換ができ、人とのつながりをつくり、課題を共有できる貴重な場だと思います。

淡海ネットワークセンターでは、人材育成事業として「おうみ未来塾」を開催しています。社会課題を見つける目と課題への理解を広げるコミュニケーション力と継続のための事業力を身につけ、人とつながり、人をつなげる地域プロデューサーとして地域課題に関わっていきます。NPOで働きたい方のためには、出会いと経験の場にしていただけたと思います。

話

特定非営利活動法人
ござれGO-SHU(甲賀)

あなたが風になって輝ける瞬間。それが、関西最大級の屋外ステージで展開される「ござれGO-SHU!」です。高知で生まれた「よさこい方式」に、郷土の「江州音頭」をアレンジさせた新しい文化を、この地、甲賀市、鹿深夢の森に、みごと花咲かせました。これは、日本の夏まつり、復活を目指して、地域再生を成し遂げた若きリーダーたちの物語です。

遡ること十二年



▲メイン会場・「鹿深夢の森」を舞台に、甲賀に熱い風が吹く。郷土への想いをのせて...

前、彼らは、地域再生への道を模索する中、北海道の「YOSAKOIソーラン祭り」に出会います。翌一九九九年には「第一回・ござれGO-SHU!」を開催。以来、二〇〇四年の市町村合併を機に、運営組織をNPO法人化し、文字通りお祭りが市民(地域住民)の手に...さらには、行政は「後援」と補助金を、三百余の企業が協賛を、そして、多くの大学生が運営・企画にボラ参加をと、四者の協働が実現。かくして、名実ともに「ござれGO-SHU!」のステイタス向上とブランド化に成功し、甲賀から発信された「ござれGO-SHU!」は、地元はもとより畿央、さらには全国から三十余チームが参加、観衆も一万数千

人を超える一大イベントに成長するまでに...しかし、将来を見据えた彼らの視点は、あくまでもシビアでした。このままでは、「地元の祭り」が何処か遠くへ行ってしまうのでは...「原点に帰ろう!」を合言葉に生まれたのが、子どもを中心とした全員参加の「総踊り・子ども江州音頭」、そして地元甲賀の顔・忍者を模した「GO-SHU戦隊・ござれんじゃー」です。子どもたちの歓声とともに、夏祭りが地域に帰ってきました。まさに、心豊かで住みよいまち。甲賀を目指してスタートした若きリーダーたちの郷土への熱い想いが、地域を蘇らせた瞬間でした。

(おうみネットサポーター 荒木 威)

特定非営利活動法人
ござれGO-SHU

代表●田中松太郎 設立●2004年(NPO法人認証取得)
連絡先●甲賀市甲賀町相模173番地1
(甲賀町商工会内)事務局長:山下保行
TEL: 0748-88-2370 FAX: 0748-88-5391
e-mail: inform@gozare.gr.jp
URL: http://www.gozare.gr.jp



▲庄巻は、観衆千人余参加の「総おどり・江州音頭」。「地域おこし」の切り札に...

若きリーダーたちが創りあげた、地域再生への道

輪

NPOのわっ WA

和

話

地域や社会を良くしていきたいとがんばっている市民活動・NPOを紹介します。興味を持たれた団体に連絡してみませんか？

おうみネットを一緒につくりませんか？

おうみネットサポーターを随時募集しています。興味のある方はセンターまでお問い合わせください。

このコーナーは「おうみネット」発行をサポートする「おうみネットサポーター」が市民活動団体・NPOの情報提供から取材・執筆までを行っています。



話

●「ござれGO-SHU!」では関西最大級の屋外ステージで30余チームが演舞を展開。

輪



●住まいと暮らしを語り合うおうちカフェ(碧いびわ湖)

和



●普及啓発を目的に開いた音楽療法フォーラムでのひとこま。参加者全員に音楽療法を体験してもらった。

新生「碧いびわ湖」若さを武器に飛躍中

約束の時間にお仕事から若い村上悟代表理事が急いで、帰ってきてくれました。たくさんのパンフレットを使いお話をたっぷり聞かせてもらいました。二〇〇九年七月に二十年の輝かしい実績のある「旧滋賀県環境生活協同組合」からNPO法人「碧いびわ湖」に生まれ変わりました。その際、代表理事 村上悟、常務理事 根本山恒平の若手に交代しました。それは、協同組合という形から特定非営利活動法人への移行という構造改革と同時にされた、大革新と感じました。従来の全事業を受け継ぎ(例えば牛乳パック・廃棄油のリサイクル商品、せっけんの共同購入等)その上に新しい時代の要求に応える新規事業の構築を進めて

います。代表例を三つ紹介すると、村上代表は木工さんの経

験もあり、一番手はエコリフォーム「住まいづくり」で、住まいがかわれば 暮らしが変わるのキャッチコピーで、雨水タンクの設定などのほか、地元の木材の活用、太陽熱利用など生活全体の見直しに挑戦しています。二番手は買い物を通じた地域貢献「未来につながるお買い物」です。びわ湖の森の小径木や間伐材を活用した紙「kiki paper」や若者の育成



▲雨水タンクの設定

に取り組んでいる上山田どっぽ村のお米の共同購入を開始し、滋賀を元気にする多面的な活動に発展させています。三番手は、会員宅での「おうちカフェ」や「碧いびわ湖フォーラム」という集いです。ゆったり食べて、よく聴き、しゃべるあつたかい集いの中で、これからの暮らしや社会のあり方を参加者みんなで描いています。物品の配送は村上代表理事、根本山常務理事が自ら配達し、お客さんとのコミュニケーションの大事な場と位置付け、県内くまなく走る姿に、飛躍の原点を見た思いがしました。(命あふれる琵琶湖)を取り戻し、子どもの未来へ受け渡すことを目的にする。と、定款にある熱い思いをひしひしと感じた取材となりました。

(おうみネットサポーター 岡崎一郎)



▲びわ湖の森を元気にするkikiペーパー

特定非営利活動法人「碧いびわ湖」

(旧 滋賀県環境生活協同組合)

代表●村上 悟 設立●2009年

会員●100名

連絡先●近江八幡市安土町下豊浦3番地

TEL : 0748-46-4551

FAX : 0748-46-4550

たくさんの人を笑顔にする「音楽療法」の発展を目指して

「音楽療法を普及して、一人でも多くの人を元気にしたい」。

滋賀県音楽療法研究会に所属していた人たちが「音楽療法の質の向上と社会的認知を高めていこう」と二〇〇四年一月に設立しました。会員は認定音楽療法士(日本音楽療法学会認定資格)や医療従事者、資格取得を目指す人たちで、現在、県内各地や近隣府県のメンバー約二十人で活動しています。

音楽療法とは、私たちの生活の中でとても身近な音楽の力を活用して、脳の活性化を促したり、楽しい雰囲気の中で無理なく心身の回復や健康増進を図るもので、音楽を聴いて気持ちをリラックスさせる受動的

療法と、一緒に歌ったり、楽器を演奏したりする能動的療法があります。欧米では一つの治療法として確立されてきていますが、日本ではまだ歴史が浅く、発展途上にあるそうです。「音楽療法士だけで食べていくのはまだ難しい現状ですが、介護や医療の現場で注目度は年々高まりつつあります。私たちも些少であっても依頼は有償で受けるようにして、次代を担う音楽療法士のための道を開拓しているところです」と事務局の三宅順子さん。現在会員は、県内各地の障がい者や高齢者関係の福祉施設、病院など約二十か所に出向き、また介護予防・歌声教室・高齢者の集まりなどから依頼を受けて、音楽療法の回数は年間千回を



▲音楽療法の実践力を高めるための会員研修会

越えます。質を高める研修会や普及啓発活動も並行して行い、県内での活躍の場は着実に広がっています。たくさんの人を笑顔に変えて社会に貢献する「音楽療法」の可能性は今後ますます拡大していくでしょう。現在会員または一緒に活動してくれる人を募集中です。音楽療法の依頼や質問も受け付けておられます。(おうみネットサポーター 中塚一恵)



▲音楽療法を取り入れた歌声サロンの様子

特定非営利活動法人 音楽療法の会さざなみ

代表●森田英子 設立●2004年

会員●23人

連絡先●野洲市久野部1-54

TEL・FAX : 077-588-2407 (三宅さん)

e-mail : yori_miya@hotmail.com

URL : http://music.geocities.jp/mtsazanami/



市民活動、NPO 運営のご相談いつでもどうぞ！

市民活動団体、NPO 法人設立から運営に関する相談まで、継続したご相談も受け付けています。お電話、メール、直接お越しいただいても結構です。ご連絡お待ちしております。

●最近の相談事例
自治会、町内などのボランティア団体とNPO 法人設立について検討会を持っています。有償のたすけあいボランティア活動を事業にしたいと考えており、事例となる団体を訪ねたいので紹介してほしい。会員の集め方、配食サービス、自治会館の管理などの参考にしたいと考えています。

県内に何団体か有償ボランティアで助け合い事業をする団体、福祉輸送をする団体があるので紹介します。また他にありましたら随時ご連絡します。

〈その後〉

無事に設立はできたが今後の活動のために助成金を探しています。設立まではいったが、今後をどうして良いのかが皆わからないでいます。具体的に活動を進めるために、どこへ声をかけたら積極的に組織を担ってくれるような人が集まるかを教えてください。

こちらにある情報ストックの中から、聞かせていただいた活動内容に合った助成金情報をご紹介します。約10日ごとに発行していますメールマガジンにも助成金情報を掲載しておりますのでご活用ください。また、説明会を開催して来られた中から担い手を探そうと思っています。

協働サロン2010 第5回 誰でも記者になれる時代 地域メディアの 可能性について語ろう

情報の受発信が個人で簡単にできるようになり、巨大な資本を必要としない市民による情報発信(市民メディア)に注目が集まっています。また地域メディアも地域の身近な話題を取り上げるなど、市民の情報発信力を取り込み、より当事者性のある情報流通を促進する動きもあります。今回は、市民による当事者性のある情報発信の輪を広げることにより、従来のマスメディアを超えた地域の新しいコミュニケーションのカタチに関して意見交換をし、新たな地域メディアの連携を探ります。

- 日時：12月16日(木) 14:00～16:30
- 場所：くさつ夢本陣(草津市)
- 定員：20人程度
- 参加費：一人500円(資料代含む)
- 内容：松浦哲朗さん(龍谷大学社会学部講師、NPO 京都コミュニティ放送 理事)より、世界のメディアの潮流、市民が進めるメディアの可能性等についてお話しいただきます。その後、実際に地域メディアを進めている方々と意見交換をします。

生きる未来ファンドおうみ助成事業2010募集が始まります！

市民の寄付を市民活動へつなげる未来ファンドおうみの助成事業を募集します。

個人や企業などからお寄せいただいた市民活動への思いを込めた寄付をみなさまの活動につなげてください！

- 募集期間：12月1日(水)～1月15日(土) ●助成期間：2011年4月～2012年3月
- 募集内容：①おうみNPO活動基金助成／おうみNPO活動基金は、滋賀県と企業、団体等からの寄付等により2002年に設立しました。市民活動団体の組織運営の強化を目的に助成を行います。②びわこ市民活動応援基金助成／関西アーバン銀行(旧びわこ銀行)様と社員の皆様からの寄付により設立しました。ボランティアや市民活動の支援を目的に助成を行います。※詳細については、当センターホームページをご覧ください。

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

TEL 077-524-8440 FAX 077-524-8442

http://www.ohmi-net.com

E-mail: office@ohmi-net.com

開館時間 / 9:00～17:00 休館日 / 月曜日・祝日

- 情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県民情報室など

編集後記

「地域再生」にかける若きリーダーたちの熱い想い。常に「原点」を追求し続ける高い志。「民・官・業・学」4者の協働と…NPO活動の見本を見た想いです。今回も、いい勉強をさせていただきました。(おうみネットサポーター 荒木 威)

ご縁のあるNPO法人「碧いびわ湖」さんの新しい活動状況を若い代表理事、村上悟様から熱く聴かせてもらい感動しました。協同組合からNPO法人に変わるドラマをしっかり見させてもらい、よい取材活動となりました。(おうみネットサポーター 岡崎一郎)

「音楽療法って何？」と興味を持った人は、野洲駅南口徒歩3分のところにある昭和喫茶「ハーモニカ」で月2回(第2・4木曜午後2時～)開催している音楽療法を使った歌声サロン(有料)を体験してみてください。「百聞は一見にしかず」、ですよ。(おうみネットサポーター 中塚一恵)

市民活動、NPO 運営の会計・税務・労務の疑問にお答えします。

市民活動、NPOの運営についてご相談を受け付けています。お聞きになりたいことをFAXかEメールでお知らせ下さい。淡海ネットワークセンターを通じて、専門家(税理士・社会保険労務士)がお答えします。

未来の話をしませんか。



育てよう、
ゆたかな未来！

住友生命保険相互会社

詳しくはスミセイメイトまで。 <http://www.sumitomolife.co.jp>

地域密着だから安心できる葬儀社です

この街から新しい時代へ
株式会社クリスタル
TEL.0748-42-7779 FAX.0748-42-7772
E-mail:sousai@crystal-hall.co.jp
ホームページ: http://www.crystal-hall.co.jp
〒521-1211 滋賀県東近江市今町960-1

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌 「おうみネット」 掲載広告募集中！

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約1,900カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください！

